

# 残雪の尾瀬・至仏山

(報告) Aka

◎日程：2018年4月26日

◎メンバー：Aka、他1名（Aka 家内） 2名



山頂の樹氷・奥は上州武尊山

ここにきて残された時間の少なさに愕然とし登りそびれた山が気になって、少しずつ潰し歩いている。景鶴、未丈、御神楽、二王子、策等々、一応それなりの成果は挙げてはきたが、まだまだ沢山あり気が遠くなるばかり。至仏山は無雪期に山ノ鼻から往復したことはあるが、残雪期に登りたいとずっと思っていた山だ。4年前の5月連休明けに Oh さん、Kawa さんと3人で景鶴山に登った時、1日目は鳩待峠から至仏山を経て尾瀬ヶ原に抜ける予定を立てたのだが、残念な事に行ったその日から入山禁止になっていて、植生保護の為に連休明けに閉鎖されるとは聞いていたが、まさか7日からとはとガックリだった。

この山の問題は冬期閉鎖の林道開通が毎年4月20日頃であり、5月の連休明けには今度はルートが入山禁止となってしまう為、年間通じて雪の時期に登れるのはわずか10数日のみとなり、さらにGW中はスキーヤーやボーダーが殺到し、狭い峠駐車場はすぐ満杯になってしまう為、実質登山期間は連休前の1週間しかないという所にある。無論、林道を時間かけて歩く体力あるなら3月でも4月初めでも行く事は可能なのだが、それは論外。

昨年75歳となり、いよいよ第4コーナーを回り、もう来年という保証はなく、今年がラストチャンスとわきまえて思い切って痛む腰をあげる事にした。実は3月初めに庭作業中に腰を捻ってしまい、ずっと謹慎中で禁断症状を呈していたのである。相棒はワイフ。駐車場が満杯になる前に入りたいので、前夜は苗場の小屋に泊まり、朝4時半に出発、約2時間で鳩待峠に到着した。50台程の駐車スペースはまだ少し余裕があり、道路わきのフキノトウにはうっすらと新雪。気温は2度だが、小雪が吹き付けて体感気温はマイナス5度位か。春先の暖かい陽気に慣れ切った身体に寒さが凍みる。天気はどうも芳しくなく、先客の登山者もスキーヤーも皆さん完全装備で準備に余念がない。

登山届をポストに投函し雨具に身を固め6時45分出発。足元は2人ともスパイク付き長靴だ。ブナ、白樺、シラビソ、コメツガと続く樹林帯の中を緩やかに登る。右横から雪交じりの強風がフードをたたき、ずっと左側に顔をそむけた状態で先行者の足跡を拾う。前線が通過しているのだろう、どうも悪い日を選んでしまったようで舌打ち打つが、吹雪という程でもなく、これしきの事では引き下がれないと

気持ちは前向きだった。

途中から燧ヶ岳や景鶴山、さらには至仏山の景観も得られる筈なのだが、視界は数十メートル、ルートを示す赤テープが途切れなく続くのが有難い。鳩待峠で見かけた登山者はどこへ行ってしまったのか、ボードを担いだ2人に抜かれただけで、人影がないのが不安だが赤テープに助けられる。西へ向かっていたルートを緩やかに北へると樹林帯の中で人声が聞こえ、沢すじでボーダーが数名遊んでいた。両サイドの崖を利用するとハーフパイプ状になり、恰好の練習場とも思えるが、この天気で頂上を諦めてしまったのだろうか。こちらの心も折れそうになるが、急登がなく歩き易い事を唯一の慰めとして先へと進む。

雪は堅くもなく柔らかすぎることなく、鉾付き長靴に丁度いい塩梅だ。樹林がまばらになり白い雪原が現れると赤布付きの旗竿が一定の間隔で雪の上に立てられていた。雪は収まったが、相変わらず視界は悪く風もある。悪沢ノ頭と思しきピークを巻き、さらに進んで小至仏山のトラバース道に差し掛かると、単独行者の男性が下ってきた。「頂上は風が強くて立ってられない。あと40～50分位かなあ」とおっしゃる。

細いトレースの小至仏山の東側を巻くこの箇所が本日より一番の難所で、足を滑らせたなら一気にワル沢に滑落で、谷底は見えないがかなりヤバそう。ストックでは止まれそうもなく恐々慎重に進み、渡り切った所で戦意喪失した。背中も痛いし何も見えないし面白くもないと不貞腐れてザック放り出し、アンパン齧りながら「もうこの辺で引き返そうか」と弱気になって空を仰ぐと、なんだかおかしい。

急に明るくなり青空が顔を覗かせ、正面の至仏山の頂上も見え出したではないか。これは何という僥倖と途端に元気が出てくる。みるみる変わる山の天気よ、アリガトさん。思わぬドラマチックな展開に感謝、感動の一瞬、これだから山はやめられない。 元気もりもり、とはいえ歩みは遅く、亀か牛歩かとろとろ歩いて振り返ってみれば、後続組が三々五々登ってくるのが見える。皆さんお元気で、最初は点のように見えていた影がどんどん大きくなり、気が付いたらもう抜かれているといった有様で、ボーダーやスキーヤー、訓練中という大型ザックに橇を引いた群馬県警救助隊にまで抜かれて、10時20分なんとか至仏山頂上到着。途中でギブアップしなくてホント良かった。登山口から3時間35分、案内書ではコースタイム2時間半とあるので、まあこんなものか。雪原の尾瀬ヶ原を隔てて聳える燧ヶ岳は関東以北の最高峰、さすがに貫禄あって堂々たるもので、



小至仏山巻道から至仏山頂上



訓練中の群馬県警救助隊

それに比べて4年前の景鶴山はかなり見劣りし、燧の引き立て役を務めている。

存分に展望を楽しみ下山にかかったが、登山者、ボーダー、スキーヤーと続々と登ってくる。10名を超えるパーティーも2組あり、平日でもこの人気ではGW中はどーなるのだろう。

私達の長靴スタイルを見て「新潟からですか？」と2人に声かけられたのはご愛敬か。往路で恐々辿った小至仏山のトラバース道もトレースが広がり、ルンルン気分で通過、頂上から

2時間弱で鳩待峠に下山、駐車場脇でフキノトウを摘み帰路についた。(了)



正面は燧ヶ岳、左手は景鶴山